

「体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議(第2回)」

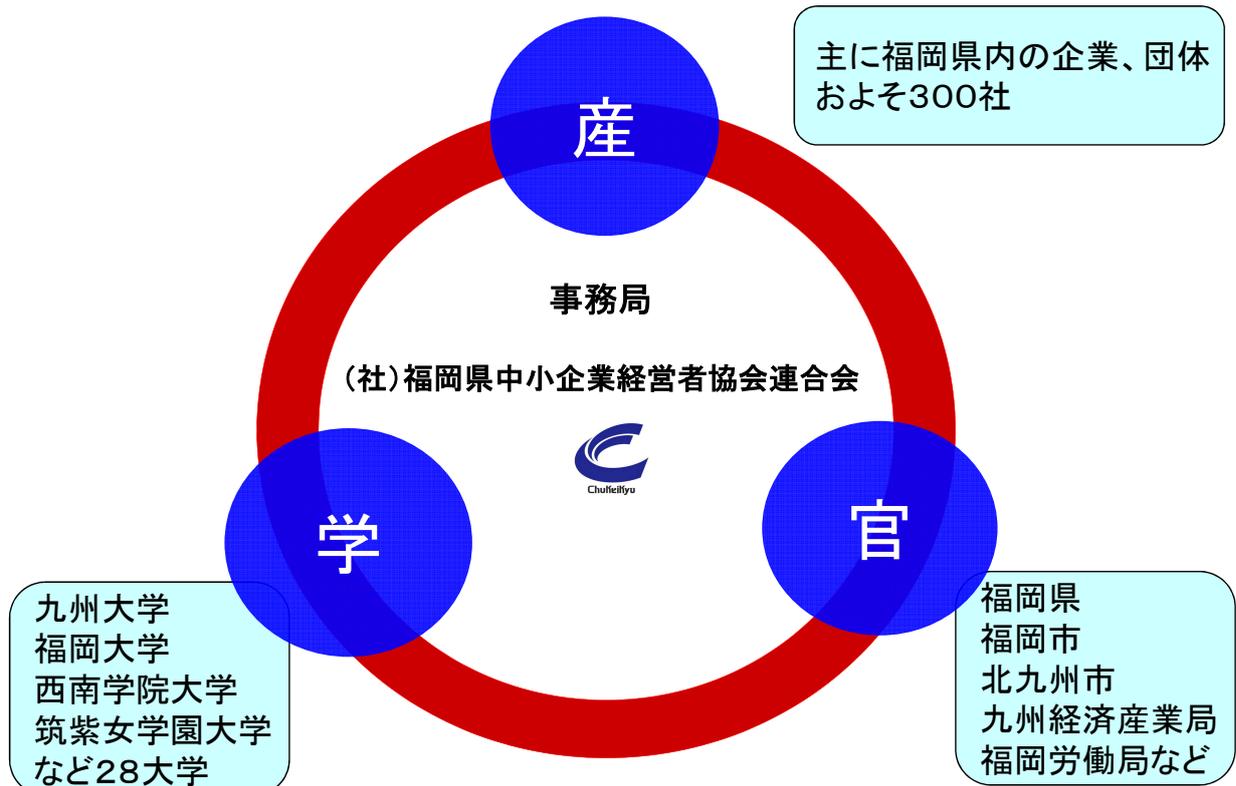
## 九州インターンシップ推進協議会の現状と課題 ～インターンシップの高度化に向けて～

平成25年3月14日

九州インターンシップ推進協議会

## 九州インターンシップ推進協議会とは？

産学官でインターンシップの推進を行う地域コンソーシアム



# 九州インターンシップ推進協議会の構成



## ～加盟大学～ 28大学

福岡国際大学・九州大学・九州工業大学・福岡教育大学・北九州市立大学  
西南学院大学・福岡大学・九州産業大学・福岡県立大学・久留米大学  
筑紫女学園大学・中村学園大学・福岡女学院大学・九州国際大学  
九州共立大学・九州女子大学・西南女学院大学・福岡女子大学  
福岡工業大学・近畿大学産業理工学部・久留米工業大学・九州歯科大学  
日本経済大学・西日本短期大学・筑紫女学園大学短期大学部  
純真短期大学・福岡工業大学短期大学部・福岡女学院大学短期大学部

## ～受入企業～ 316社（平成25年1月末現在）

福岡県・福岡市・北九州市・久留米市・太宰府市・筑紫野市・新宮町  
九州電力(株)・(株)西日本シティ銀行・西部ガス(株)・(株)九電工・西日本鉄道(株)  
NTT西日本・コカコーラウエスト(株)・福岡トヨタ自動車(株)・(株)博多大丸  
福岡商工会議所・エフコープ生活協同組合・植田会計事務所  
(株)ティーアンドイー・(株)ハウインターナショナル・(株)談  
のこのしまアイランドパーク・(株)平山旅館・(株)おおやま夢工房  
NPO法人箱崎自由学舎ESPERANZA・NPO法人九州プロレス etc・・・

2

# 九州インターンシップ推進協議会の経緯

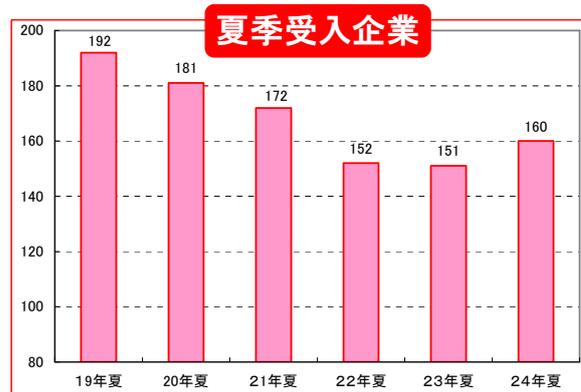
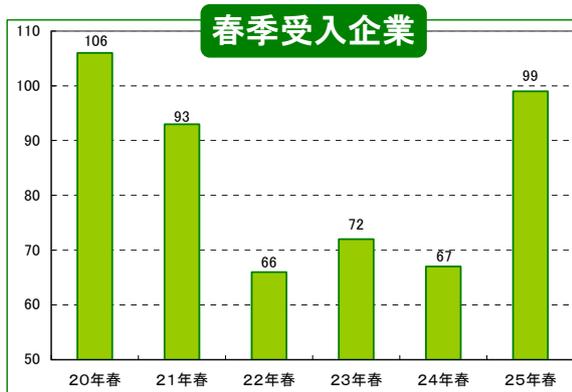


## これまでの経緯

平成9年9月	インターンシップに関する基本的認識及び今後の推進方策を明らかにするため、通産省・労働省・文部省(いずれも当時)が「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」を公表。
平成10年3月	インターンシップの試験的な実施(春季) 参加大学:4大学、参加者:31名、受入企業:11社
平成10年7月	インターンシップの試験的な実施(夏季) 参加大学:4大学、参加者:44名、受入企業:21社
平成11年11月	第1回九州地域インターンシップ推進連絡協議会開催
平成12年8月	福岡県インターンシップ推進協議会設立
平成14年8～9月	本格的なインターンシップを開始 参加大学:20大学、参加者:243名、受入企業:84社
平成23年5月	名称を九州インターンシップ推進協議会へ変更

3

## 年間約800名の学生がインターンシップを実施



4

## 年間スケジュール

### 主に春休み、夏休みを中心にインターンシップを実施

	春季	夏季
受入企業・団体からの応募締切	11月上旬	4月上旬
学生申込	11月中旬～ 12月中旬	5月上旬～ 6月上旬
学生決定	1月中旬	6月中旬
インターンシップ実施	2月～3月	8月～9月

# インターンシップスケジュール

## 事前研修と事後研修でインターンシップの有効性を高めている

(春季)	1月中旬	2月上旬	2月～3月	4月中旬
(夏季)	6月中旬	7月下旬	8月～9月	10月中旬
	学生決定	事前研修会	インターンシップ	事後交流会



### 事前研修会

- ・当協議会が主催
- ・運営は当協議会学生スタッフ
- ・インターンシップに参加するにあたっての心構え・マナー等を指導
- ※インターンシップの目的意識を形成することが重要

### 事後交流会

- ・主催、運営は事前研修会と同様
- ・インターンシップの振り返り、経験を今後はどう生かすかの指導、社会人との交流
- ※インターンシップを通して何に気づき、どう活かすかの整理が重要

# 学生スタッフについて

目的: 学生、社会に対してインターンシップの意義、メリットを伝える

活動: インターンシップへの参加呼びかけ、広報活動  
インターンシップ事前研修会、事後交流会の企画・運営

構成: 12大学、36名 ※主にインターンシップを経験した学生

福岡大学、西南学院大学、九州産業大学、福岡女学院大学、久留米大学、福岡工業大学

福岡女子大学、筑紫女学園大学、九州女子大学、西南女学院大学、久留米工業大学、中村学園大学



。社会に出るのが不安だ。

学生にしか出来ない体験をしたい。

**自分を変えたい**

自分の適性を知りたい。

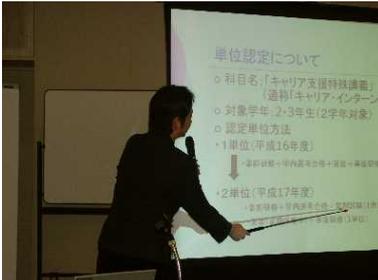
とにかく行動を起こしたい！

視野を広げたい。

インターンシップをきっかけに、  
一歩進んだ自分に変わりませんか？

# 標準的インターンシップの実践例

約2W(実働10日間)が最も多い事例

導入	実施	クロージング
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営トップからの理念</li> <li>・創業期の話</li> <li>・学生への期待発信</li> </ul>	各現場にて <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業同行</li> <li>・事務補助</li> <li>・電話、接客応対</li> <li>・従業員からの体験談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り</li> <li>・企画提案のプレゼン</li> </ul>
		

# プロジェクト型インターンシップ実践例

## キャリアスコーププロジェクトとは

地場企業へのインタビューと記事編集をインターンシップを活用して学生自ら行い、学生間での情報展開も同時に行う。取材はチームを編成し社会人メンター(ボランティア)が指導を行う。



社長取材

仕事人取材



- 24年夏に初めて実施
- 6月募集 8月～9月活動 10月発表会
- 150名の学生が150企業を取材
- 記事はWebサイト「クレリア」へ掲載され、地元企業を紹介するキャリア支援サイトとなり多くの学生がアクセスしている。



# インターンシップの高度化が求められる理由

大学教育(経営)の厳しい実態

産業人材確保の厳しい実態

社会環境の変化や価値観の変化に対応した産官学一体となった取組みが求められているのでは？

## <国の動き>

内閣府 若者雇用戦略  
『自ら職業人生を切り拓ける骨太な若者への育ちを社会全体で支援』

文部科学省  
「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

経済産業省  
『地域中小企業の人材確保・定着支援事業』

何れも

①インターンシップが重要

②社会全体での人材育成が重要

という視点が入っている

# インターンシップ高度化に向けて

## 参加者数の拡大

福岡県内の学生数:約12万人 ⇔ 当協議会インターン参加者:約800名

⇒ 目標:参加者数一桁増

課題:事務局機能の強化が必要。大学との連携強化  
申込から決定通知までのシステム化が必要。

## 九州全域への展開(広域化)

九州全域での実施

⇒ 目標:九州全域での広域インターンシップを実施

課題:各県それぞれの取組みとなっており、学生にとって選択が限定的である。

## 実践的インターンシップ(長期化)

継続性を考えれば企業・学生のWinWinが重要

⇒ 目標:実戦型・PBL型のインターンシップを増やす

課題:大学として春休み、夏休み期間を超える長期インターンシップを推奨出来ない。

## マッチング方法

現状は学生の希望が重なれば、幹事会による抽選にて決定

⇒ 目標:面接・書類選考の導入により、意識の高い企業と学生をマッチング

課題:事務局機能・コーディネーター機能の強化が必要

- 地域全体でのグランドデザインの共有
- 三省(文部科学省・経済産業省・厚生労働省)一体での支援
- 大学側、企業側のインターンシップに関する正しい理解と当事者意識
- 事務局の本気度と地域的信頼性の高さ
- ノウハウの蓄積とシステム化
- 地域全体でのコスト負担の意識